

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校68.6%, 県69.2%)

対県比 99.1 %

学力定着実態調査 本年度正答率

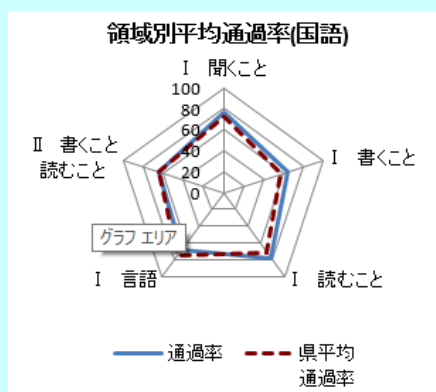
本校 72.5 %
全国 73.5 %

対全国比 98.6 %

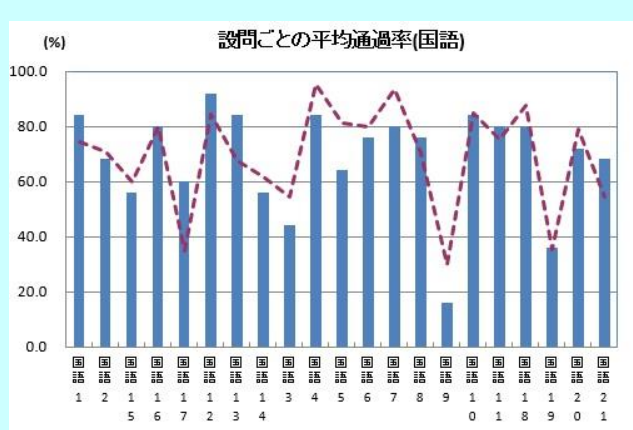
本年度の結果について

- 全体的な傾向
多様な情報の読み取りと、その活用の仕方に課題が大きい。
- 昨年度の課題への取組
読み取りや、文法事項に課題が大きかった。授業改善により、幾分克服できている。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題
本校 82.0 %
全国 77.4 %
県 78.0 %

B問題
本校 79.0 %
全国 72.2 %
県 73.0 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 100 %

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(タイプI 二3) (64.0%)
・表現技法の理解に課題がある。

【課題2】(タイプII 五3) (72.0%)
・多様な情報の中から、問われていることに関する必要な情報の取り出しに課題がある。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(A 7の一) (40.0%)
・相手に分かりやすいように、語句を選択して話す力に課題がある。

【課題2】(B 3の三) (73.3%)
・説得力のある文章にするために、必要な情報を選択し、整理する力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (80%) 実施後数値 (%)
・表現技法について、基礎的な事項の学習をするとともに、いかなる効果を生むのかを読解の中で実感させる。また、自分の文章表現に取り入れる試みをすることで、更なる定着を図る。

【課題2】目標値 (80%) 実施後数値 (%)
・多様な資料を読み解く活動を、授業の中で丁寧に積み重ねていくことで、情報に慣れさせる。また、自分の主張に説得力を持たせるために、どんな資料が有効であるかという、発信者の経験も試みることで定着を図る。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 (%)
・目的と相手意識を明確にした表現活動を、授業の中に取り入れていく。

【課題2】目標値 (75%) 実施後数値 (%)
・無答率が6.7%と高いことから、多様な情報のもつ意味とその活用の仕方を、授業の中で丁寧に指導していく。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校66.9%, 県66.9%)

対県比 100%

学力定着実態調査 本年度正答率

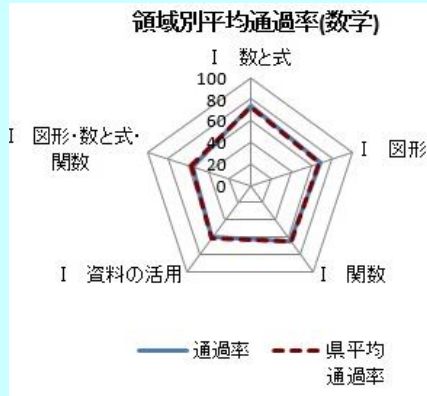
本校 70.0 %
全国 68.3 %

対全国比 102.5 %

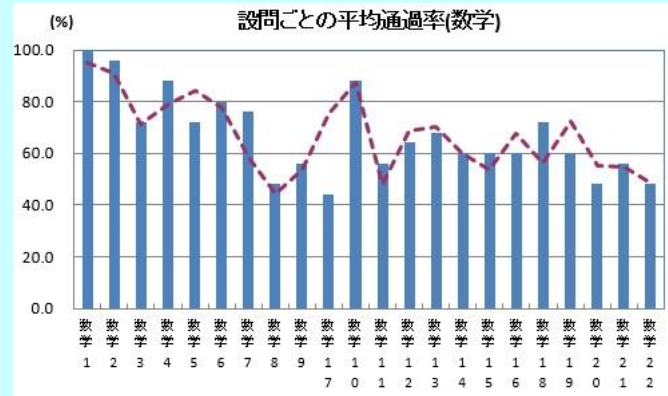
本年度の結果について

○全体的な傾向について
タイプⅠは66%, タイプⅡは49%の通過率となっている。
タイプⅠ, タイプⅡとも図形と関数の特定の問題に課題がでている
○昨年度の課題への取組の課題
昨年度は, 数量や図形などについての知識・理解と記述式の問題に課題があった。説明や証明の問題を单元ごとにとり入れた。成果につながない。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題
本校 66.0 %
全国 64.6 %
県 64.0 %

B問題
本校 49.0 %
全国 48.1 %
県 48.0 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 %

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(9) (44.0%)

関係を文字式で表すの問題に課題がある。

県平均通過率 75.4%に対して本校生徒の通過率は44.0%である。

【課題2】(1 1 - (2)) (48.0%)

数と式の事象の解釈と表現の問題に課題がある。

県平均通過率 55.4%に対して本校生徒の通過率は48.0%である。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(A 4 (3)) (6.7 %)

扇形の弧の長さを求める問題に課題がある。

全国平均通過率 30.7%に対して本校生徒の通過率は6.7%である。

【課題2】(B 1 (3)) (6.7 %)

2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え, 数学的な表現を用いて説明がする問題に課題がある。

全国平均通過率 14.0%に対して本校生徒の通過率は6.7%である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (7 5 %) 実施後数値 (%)

長方形の机の周りの椅子の並び方の規則性を発見していくことが不十分であった。規則性を見つける過程で多様な考え方を引き出していく学習を図る。

【課題2】目標値 (5 5 %) 実施後数値 (%)

誤答 (イ) を選択している生徒も多く, 文字式を作り式に値を代入して計算した結果の吟味が不十分であった。計算過程の説明をきちんと説明する学習をさらに多く取り入れていく。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (3 0 %) 実施後数値 (%)

1年の図形の学習の定着が不十分であった。単元の復習を行い定着を図る。

【課題2】目標値 (2 0 %) 実施後数値 (%)

1年の図形の学習の定着が不十分であった。単元の復習を行い定着を図る。

計算過程の説明をきちんと説明する学習をさらに多く取り入れていく。

※今後の改善計画については別紙

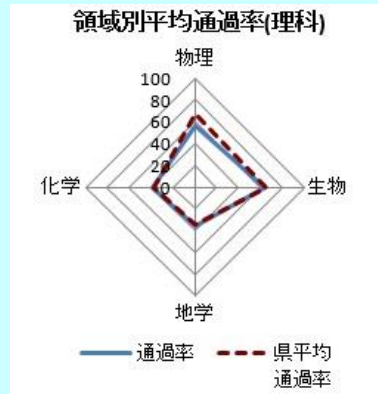
指導方法等の改善計画について [理科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校48.8%, 県50.8%)

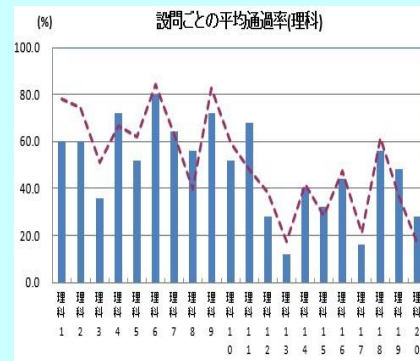
対県比 96.0 %

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 59.4 %
全国 61.1 %

対全国比 97.2 %

○タイプⅠは51.3%, タイプⅡは45.0%の通過率となっている。この結果から基礎基本の定着を図るとともに、科学的思考、技能の活用に力をつける必要がある。よい領域は生物分野で、その他の領域は課題がある。

○昨年度の通過率が44.0%で、全領域に課題があったが、日常生活に関連付けて考えさせたり、体験を通して知識の定着を図ることで、今年度は48.8%になり、県平均50.8%に近づいてきた。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(5-(3)) (12.0%)

砂岩を判断する根拠が分からない生徒が88%であった。

【課題2】(7-(2)) (16.0%)

メスシリンダーを用いた個体の体積のはかり方が分からない生徒が84%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(50%) 実施後数値()%

課題解決型の授業をできるだけ多く取り入れ、主体的に考えさせることで、根拠をもとに表現できる力の育成を目指す。そのために、班やクラスで説明や、発表する場面を多く設定していく。

【課題2】目標値(50%) 実施後数値()%

メスシリンダーを使う意味をしっかりと考えさせ、単に知識を詰め込むのではなく、日常生活と関連づけて考えさせることで定着を図りたい。

※今後の改善計画については別紙

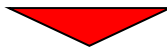
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校66.2%, 県72.4%) **対県比** **91.4%** **本年度の結果について**

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率

○全体的な傾向について
タイプⅠは68.2%, タイプⅡは55.0%の通過率となっている。中でも「書くこと」はタイプⅠは通過率62.0%, タイプⅡは52.0%で、課題が大きい。

○昨年度の課題への取組の課題
昨年度も「書くこと」に課題が見られた。帯学習として、3人称・単数・現在の英文を用いたQ&Aや、語順の定着を図る小テストを行ってきたが、成果につながっていない。



重点課題

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】(大問10-2) (44.0%)
「会話の場面に応じて英文を書く」問題において、無答20%, doesn't が書けない生徒は25.0%いることから、3人称・単数・現在の否定文の作り方が理解できていない。

【課題2】(大問12) (52.0%)
「まとまりある一貫した英語の文章を書く」問題で、無答の生徒が24.0%もいた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

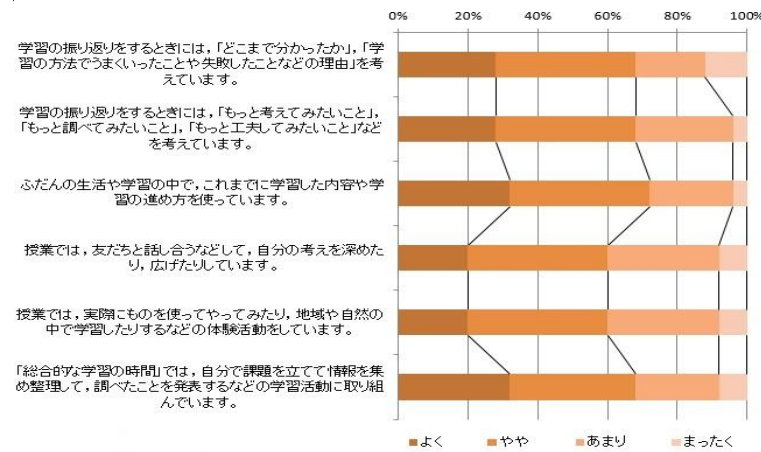
「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】目標値(60%) 実施後数値() %
3人称・単数・現在の英文を、疑問文や否定文にするドリル練習を行うとともに、口頭によるQ&Aや例文を参考に簡単な英文を書く活動に取り組ませる。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値() %
テーマに沿って、3文でつながりのある英文を書く練習を行う。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

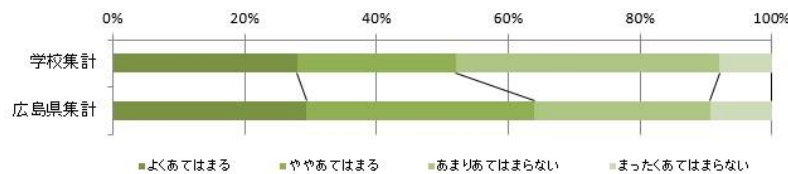
「課題発見・解決学習」(3)



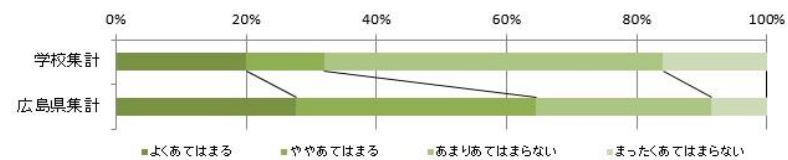
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」の肯定的回答が、60.0%であり、県との差が17.5ポイントもあった。(県 77.5%)	ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、主体的で深い学びにつながる授業改善の取組を行う。	2	75%	生徒学習アンケート	12月		

(2) 教科

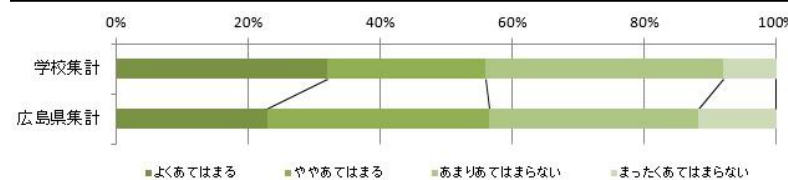
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



数学の授業では、学んだことの振り返りをしています。



理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。

生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。」肯定的回答 52.0% (県 64.0%)	授業の中で、「めあて」と対応した「振り返り」をノートに記述させ、毎時間、提出させる。	2	70%	生徒学習アンケート	12月		
「数学の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。」肯定的回答 56.0% (県 70.1%)	授業の中で、「めあて」と対応した「振り返り」をノートに記述させる。	2	70%	生徒学習アンケート	12月		
「理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。」の設問に肯定的回答が32.0%と低かった。(県 64.5%)	課題解決型の授業を仕組み、個々に実験方法を考えさせたり、予想を立てさせるなど工夫していく。	2	60%	生徒アンケート	2月		
肯定的な回答の割合は56.0%である。聞いたり読んだりしたことについて、Q&Aで内容の確認はしているが、感想や意見などを発表させる活動が不十分である。	ペアやグループ学習を取り入れ、自分の意見を発表する場を設ける。	2	60%	定期テスト	3月		